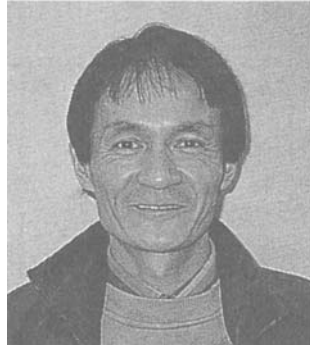


1996「植村直己冒険賞」受賞者



尾崎 隆
三重県亀山市

幻の山 ミャンマー最高峰カカボラジ初登頂

趣旨

ミャンマー最高峰カカボラジ山と周辺地域は、同国の長年の鎖国政策や山岳民族との内戦で「世界最後の秘境」の一つとして残されていた。1993年、軍事政権とカチン族が和平を締結し、登山家に扉を開いたことをきっかけに「ミャンマー日仏三国友好登山隊WITH尾崎ファミリー」が組織され、この計画に達した。



中央の白いピークがカカボラジの頂上

冒険内容

ミャンマー最北稜、中国との国境ヒマラヤ山脈の一角に位置するこの国の最高峰でもあり未踏峰であるカカボラジ山(5881m)。

山の写真すら公表されず資料が皆無に等しい山に、本人とミャンマー人のナンマー・ジャンセン他7人(そのうち6人が悪天候のため中途断念)とともに最北の町ブタオから7月25日に登頂を開始。泥沼、ガケ崩れの跡やヒル、ブヨ、マラリア蚊を含めた吸血虫などが生存するジャングル250キロの行程を約1ヵ月かけて歩きベースキャンプに8月20日到着する。

8月21日から、ナンマー・ジャンセンと2人でC1までルートを延ばす。24日から、大岩稜のコルに突き上げる危険なクローワールに向かってルート工作と荷上げ。27日、雨季による毎日の雨でルート工作の効率が悪いなかを上部氷河に入るが失敗。28日、氷河突破のメドがつかず大セラックの真下を横ぎるルートに変更する。広域にわたってデブリで埋めつくされている一帯を神に祈りながら駆けぬげ5200mの頂上稜線にはい上がり、C2を設営。29日、C2から頂上稜線に向けルートを延ばす。

9月2日、頂上アタックに向けC2を出発。しかし、頂上に届くことはできなかった。そのうえ4台のガソリンコンロが故障し登山を一時中断BCに降りて近くの村(100キロ)までコンロ調達に向かう。

9月10日、2台のガソリンコンロが到着し登山活動を再開、C1に入る。12日、第3キャンプ(5400m)に入り、頂上稜線のギャップに達したが、天候が崩れ、13日、14日と停滞をよぎなくされる。

9月15日、6時30分C1を出発。天候が悪く視界は閉ざされたが午前11時、トラバースを終えギャップに到着。ここから極度に困難なピッチが始まる。岩壁はヨーロッパ・アルプスのドリュールのようにそそり立ち、ギャップから8ピッチほど登ると少し傾斜がゆるみ通常のスタカット登攀のスタイルにもどる。

午後3時12分、ミャンマー人のナンマー・ジャンセンと登頂に成功。下降は困難を極めたが、ヘッドランプの光をたよりに慎重に下り、午後7時30分C3に到着。16日の昼過ぎ、BCに無事到着した。

工夫、独創性

上部氷河のクレバス帯で使う組立て式の特別に作ったアルミニウムはしごを使用。

前回の登山でC2予定地を目指して上部氷河のセラック帯を登っていたとき、クレバスがいたる所で大きく口を開け、スノーブリッジになり、きわどくひっかかっている崩れそうなところを強引に突破していたが、帰る途中スノーブリッジが崩落し帰路を断たれた。この反省から特性のはしごを考案しクレバスで活用した。

1996 冒険情報一覧表

	山	縦横断	海	極地	空	川	その他	計
個人活動	19	63	11	2	2	1	5	103
団体活動	40	12	7	0	0	1	2	62
合計	59	75	18	2	2	2	7	165